

金ゼミ(ホームゼミナール I～VI)

ーアジアビジネスー

1. ゼミ内容

21世紀は、まさしくアジア・ユーラシアダイナミズム時代である。アジア経済は、巨大な市場規模や豊富な天然資源など潜在性が高いことから、世界経済を牽引する。世界経済に占めるアジア経済の割合は、現在の27%から2050年には52%になると予測されている。また、アジア域内では国境を超えた経済連携が深化する一方、欧米など世界各国がアジアシフトを強めている。

日本も、より一層アジアとの共存共栄を図るべく経済連携を推し進めるであろう。したがって今後、日本の企業やビジネスパーソンにとって、アジアの経済やビジネスの情報・知識・理論が必要不可欠となることは言うまでもない。

当ゼミでは、アジア情報を活用し、アジア市場の開拓、アジア戦略の策定、アジアの消費者や企業の誘致を行う所謂「アジア・グローバル人材」の育成を目指す。

運営方法は、「学生による文献調査+レポート作成+ゼミ報告+ディスカッション」である。ただ、運営方法は学生のアイデアを積極的に取り入れる。

また、ビジネスパーソンや外国人研究者との交流、セミナー参加、企業・工場見学、海外視察などのフィールド調査を行う。寺島文庫塾アジアユーラシア研究会と連携し、ネットワーク化を図っている。2011年度実績は韓国視察(国会議事堂、韓国三井物産、朝鮮半島38度線)やビジネスパーソン・外国人研究者との交流、コリアンタウン視察(新大久保)。2012年度は、台湾視察(台湾三井物産、新竹サイエンスパーク、中華大学)、ビジネスパーソン・外国人研究者との交流、国際学生セミナー(20大学・54名が集い東アジアについて1泊2日で議論)、合宿(三浦半島で一泊二日)。2013年度は、香港視察を予定。

就職指導方針は、アジア進出を強化している日本企業(サービス業・製造業)や日本に進出しているアジア企業を推薦・紹介する。また、アジア専門家やグローバルビジネスパーソンを目指す学生に大学院への進学指導を行う。

2. 学年毎の学習・研究内容

- ①2年時は、アジアの基礎的な知識・理論を習得し、アジア発の国際情報の収集・分析・発信力を身に付ける。アジアデイリーニュース(毎日、当番制)やアジア政治経済概況(ゼミ毎、当番制)の作成と発信・報告。2年時後半には、卒業論文のテーマを決定し、関連する文献や情報を収集する。
- ②3年時は、アジアの問題点・課題を発見し、経営戦略・ビジネスモデル・起業などを通じて解決策をまとめる。卒業論文の作成進捗状況を報告する。また、就職や大学院進学などの進路指導を行う。
- ③4年時は、地政学的知や新時代の国際感覚を養う。卒業論文を推敲し、完成させる。